

## 「物語」を手掛かりにした東日本大震災後コミュニティ支援の実践

—ホモ・ナラティビスト（物語る人間）と聴く人が会う「復興の証人 10年プロジェクト」から—

Resilience and Community : Through thinking on Homo-Narrativist in Community after 3.11 Catastrophe

村本邦子(立命館大学)／中村正 (立命館大学)

Kuniko Muramoto (Ritsumeikan University) / Tadashi Nakamura (Ritsumeikan University)

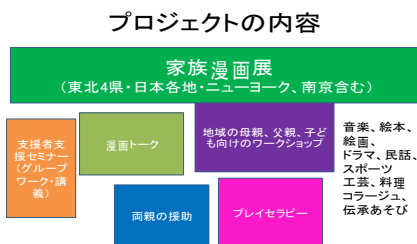
Key words: ソーシャルキャピタル、レジリエンス、コミュニティ、復興ボランティア論

Social capitol, Resilience, Community, Volunteer

### 本研究の問題意識

2011年3月11日に起きた東日本大震災を受け、遠方から無理なく長期的に地域のレジリエンスに働きかける支援方法を検討した。家族漫画展をコミュニティに関与する媒体とし、現地の支援機関と連携して、多様な対人援助プログラムを実施しながら、毎年東北4県を巡回し、十年かけて被災と復興の証人 (witness) になるというプロジェクトを立ち上げた。5年を過ぎたところで、これらの実践を振り返って検証し、「物語」の輻輳と想起の協働という観点から、大規模災害後のコミュニティ支援について考察する。

### 臨地の対人援助の内容と特徴



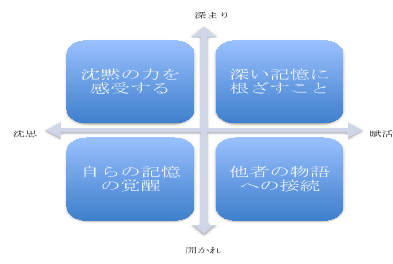
第一に、家族漫画がもたらす意味である。漫画展会場で語り出される物語、感想ノートのメッセージ、インタビューの分析によって、作品としての家族漫画が人々の記憶を呼び起こし、漫画のもつストーリー構成に託して自らの体験を物語として想起させ、絆の感覚（ソーシャルキャピタルとしての結束力）を強化していることが明らかになった。

第二に、地域の民話や伝承遊びをテーマにした家族向けプログラムの意味である。フィールド調査から、東北では、災害後、物語力がレジリエンスを支え、民話の伝承活動が活性化していることが明らかになった。本プログラムは、地域の家族をその流れに連ねようとするものである。

第三に、支援者支援として実践してきたプログラムである。多様な対人援助職者が集まり、地域の持つ力に焦点を当てながら事例検討を行うことで、ネットワークを強化し、困難を乗り越える力を持つ家族と地域という物語が語り出されていく。最後に、証人であることを使命とおいたところから、協働する地域の支援者や参加者らの被災と人生が語られるという効果を生んでいる。

これら三つの意味は企画者の意図だけではなく、各プログラムの感想文や反省会からの指摘をもとにした整理である。

### 輻輳する物語の布置と考察



漫画展によって呼び起こされ、掘り起こされ、想起され、そして語り出される物語がある。この意味では「ホモ・ナラティビスト（物語る人間）」といえる諸相がある。さらにそれを「聴き取る人」としての外からの支援者の関与も重要である。証人というキーワードは忘れないという立ち位置となり、能動的な聴く人として上記に布置したような輻輳する物語を想起させる触媒的な作用をもたらす。また、協働の媒体としての漫画展や漫画冊子（「つながるプロジェクト」として家族物語本が人から人へとプレゼントする取り組み）が人々をつなぎ、思わぬ出会いが波のように生起する。これを「物語想起がもたらすつながりの活性化」としておきたい。さらに、震災によるトラウマを「関係の破壊」と考えると、「関係を紡ぐこと」がレジリエンス・修復といえる（復興ボランティア論、つまり災害ボランティアが思わぬつながりを結ぶことの指摘と重なる。渥美2014）。この意味ではプロジェクトの存在がレジリエンスを支える。結束型、橋渡し型、連結型のソーシャル・キャピタルを賦活させているといえるだろう（アルドリッチ 2015）。これを物語論から見ると、意味づける力としての物語の継起的な想起が災害を機に「つながる力」として作用しているといえるのではないかと。並行して取り組んだスピノフ企画「心の防災：ココロ重なるプロジェクト」における街頭インタビュー調査（250名、2015年）の結論（家族物語による日常的なつながり感覚の想起とナラティブの力）とも重なる。「つながる力」とは、震災と復興をとおした、内部と外部の、物語る人と聴く人の、基層にある体験と非日常における覚醒の、複数の声が重なりあう相互作用の効果としてある。

村本邦子・中村正・荒木穂積編『臨地の対人援助学』晃洋書房、2015年  
渥美公秀『災害ボランティア』弘文堂、2014年

アルドリッチ.D/石田ほか訳『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か』（ミネルヴァ書房、2015年）